

2016 年度目録委員会記録 No.2

第 2 回委員会

日時:2016 年 5 月 21 日(土)14 時~17 時

場所:日本図書館協会

出席:渡邊委員長、木下、河野、田代、津田、野美山、村上、横山

<事務局>磯部

[配布資料]

1. NDL 案へのコメント(61 ページ-A4、渡邊委員長)
2. 体现形・著作・表現形の諸エレメント案について(4 ページ-A4、田代委員)
3. TRC 意見・疑問 (体现形・著作・表現形)(1 ページ-A4、横山委員)
4. 第Ⅱ部 資料に関する記録 ユニット Q 体现形に関する注記の記録(2016.5.21 改訂) パターン A(4 ページ-A4、横山委員)
5. 第Ⅱ部 資料に関する記録 ユニット Q 体现形に関する注記の記録(2016.5.21 改訂) パターン B(3 ページ-A4、横山委員)
6. 整合性のチェック作業表 (タイトル)(2016.5.21) (6 ページ-A4、野美山委員)
7. 分かち書き (2016.5.21) (21 ページ-A4、村上委員)
8. 用語比較表(2016.5.21) (16 ページ-A4、河野委員)
9. 2016 年度第 1 回目録委員会記録(案) (4 ページ-A4)
10. 2015 年度第 11 回目録委員会記録(4 ページ-A4)

[報告事項ほか]

1. 議事録の確認
 - ・ 2016 年度第 1 回目録委員会記録(資料 9)について確認した。

[検討事項]

1. 注記について

資料4~6をもとに、検討を行い、作業方針を確認した。

 - ・ 注記の条文案は、本文の参照なしに、注記のみで内容が明確に理解できるように表現を検討する。
 - ・ 出版表示に関する注記は、資料4「パターンA」の構成案を採用して作業を進めることとする。他の注記についても、当面この構成に準じて作成する。
 - ・ 注記に条文があるが、各属性の条文に該当する箇所がない場合については、RDA に従い注記の条文に残し、その旨のコメントを付す。
 - ・ 複数の条文で参照される注記が同一内容の場合は、注記の条文は一つにまとめることとする。

る。

- ・ 注記が必要となる場合とその方法を具体的に示す条文は、「記録の方法」の中に繰り込む構成とする。

2. 体現形・著作・表現形の諸エレメント条文案について

資料2をもとに、4月にNDLより送付された条文案の検討を行った。

- ・ 目録委員から寄せられた意見に対応して、NDL案の改定を進める。
- ・ 「単巻単行資料」および「複数巻単行資料」の用語については再検討を行い、「単巻資料」と「複数巻単行資料」とする。
- ・ 「刊行頻度」は現案（RDAと同じ）のままとするが、「上記に適切な用語がない場合はデータ作成機関で適切な語を記録する」など、別法を設けることについて併せて検討する。
- ・ 著作の条文案の「説明・管理要素」の配列順序については、説明・管理要素が識別につながる要素であることを考慮し、現案のまま、「著作の内容に関する事項」の前に置くこととする。

3. 付録について

資料7～8をもとに、検討を行った。

- ・ 「片仮名表記法」と「分かち書き」については、各機関の規則を取りまとめたものを整理し、検討を進める。
- ・ 用語比較表は、RDAの用語集に対応する用語はすべて反映する方向で引き続き検討を進めることとする。

次回以降の委員会の予定

6月11日(土)

7月9日(土)

以上